

2014.12.22号

- ・名古屋骨販協組、岐阜骨販協組各社、適正水準トン3000円程度に引き上げ値上げへ
岐阜、愛知、三重の砂利業者等で組織する名古屋骨材販売協同組合(杉山隆英理事長)と、岐阜・西濃・揖斐・中濃地区の砂利業者等で組織する岐阜骨材販売協同組合(同)の各社は、名古屋および岐阜地区向けの生コン用砂利・砂について来年4月出荷分から着値の適正水準をト、500円引き上げ3000円程度として値上げを要請した。砂利業者の生産・輸送を支える備車ダンプが慢性的に不足するなかで「砂利業界のコンプライアンスとして積載量の適正化により運転手の労働環境を改善することでダンプの安定確保につなげる」(杉山理事長)。各社は輸送問題の抜本的対策を行ううえで、コスト上昇分を転嫁するための必須の価格水準として値取りを目指す。
- ・群馬県の西毛砂利協組各社、トン100円値上げ浸透し再値上げも検討
群馬県の西毛砂利協同組合(山口勝理理事長)の各社は、14年度の値上げについて生コンなど全てのユーザーから有額回答を得て10月までにトン100円程度を浸透させた模様だ。輸送費(運賃)分も別途請求し転嫁しているがダンプ不足は続いており、各社限られたダンプ台数の中で製品輸送と採取地からの原石運搬を両立できず生産・出荷の停滞を招いている。「安定供給に努めるには輸送や生産コストアップ分への転嫁が待ったなしであり、価格の継続的な適正化が必要」(組合員)とし、来年4月からの値上げを検討する。

2014.12.08号

- ・兵庫県砕石事業協組各社、トン200～300円値上げへ
兵庫県砕石事業協同組合(久保晋典理事長)の組合員各社は、来年4月出荷分から砕石製品を輸送費込みでト、200～300円値上げする姿勢を固めた模様だ。播磨西部(家島、赤穂等)の各臨海工場は大阪湾岸向け海送品について相手先バース渡し、播磨東部(姫路等)、阪神(西宮等)、但馬(豊岡等)の各内陸工場は持ち込み渡しでの上げ幅。海と陸の輸送手段の安定確保が危惧されるなかで組合員の中にはガット船の新造や、自家用ダンプの増車の動きもあり、事業継続に必要な投資を行うだけの原資の確保を目指す。
- ・三重県砂利協組連、長良川河口部の堆積砂の砂利採取による有効利用陳情
三重県砂利協同組合連合会(大森正信会長)は10月に、桑名市の長良川河口部のサンドポンプ船による浚渫工事で発生した堆積土砂(砂)について、国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所に対し砂利採取による有効利用を陳情した。国交省では今年度から5年間で50万㎡の浚渫を予定しており「来年度以降に浚渫する40万㎡のうち泥分を除いた75%の30万㎡が細目の原砂として使用できる見込みだ。貝殻等異物を含むが、篩いや洗浄で対応できるだろう」(連合会関係者)。浚渫した土砂の堆積場所は愛知、岐阜との県境で5*。圏内に砂利プラントもある。名古屋を中心に砂需要が高まるなかで資源(原砂)確保の一助になるとし、来年度からの採取実現を目指している。